

## 糸魚川市駅北大火被災者・関係者説明会（夜の部） 議事録

日 時	令和2年11月9日（月）19：00～19：50	場 所	ヒスイ王国館2階ホール
件 名	(1) 復興関連工事の予定について (2) 駅北まちづくり戦略について (3) 駅北広場「キターレ」の利用について (4) その他		
出席者	糸魚川市	米田市長、見辺産業部長、斉藤復興推進課長、五十嵐建設課長、渡辺企画定住課長、大嶋商工観光課長、林健康増進課長補佐、室橋こども課長補佐ほか職員	
	被災者関係者	8世帯9人（被災者関係者以外の一般参加者3人）	
	報 道	3社	
<b>会 議 要 旨</b>			
1 開 会	(昼の部に同じ)		
2 あいさつ (米田市長)			
3 全体説明			
説明(1)	(1) 復興関連工事の予定について (質疑なし)		
説明(2)	(2) 駅北まちづくり戦略について (男性1) 概要版資料の「3つの取組の方向と実践活動」について、高齢者元気の活動が「まちなか健康運動」だけとなっていますが、これだけでいいですか。 ⇒ (斉藤復興推進課長) まちづくり会議の各部会で話し合いをして、まずこの内容で実践していこうというものは、これだけになります。ほかにもアイデアとして温めているものもあり、活動を始めていくなかで実現できるものが増えていくこともあると思います。あくまでスタート時点での活動ということで捉えていただければと思います。  (男性1) 続いて地産地消の活動のなかに、小さなマルシェ（朝市）とあります。私の住む大町区は、高齢化率が51～52%と高く、高齢者が気軽にまちに出て買い物ができることが大事だと思うのですが、買い物ができる場としては朝市に限るということですか。 ⇒ (斉藤復興推進課長) こちらについても、まちづくり会議の部会での話し合いで、朝市から始めてみようということで、すでに土曜キター市のような形で取組が始まっています。こうした場の活用状況を見ながら、展開を広げていくということも考えられますので、こちらでもスタート時点では朝市からということになります。		
	(男性1) 私が調べたところ、大町区には80歳以上の高齢者が38人おり、うち一人暮らしの方は、男性1人、女性7人になっています。駅北のスーパーが2月に閉店してから食料の調達に難儀している状況です。ある方は自転車に乗って大通り沿いの店舗に出かけたところ転倒して大ケガを負ったり、またある方はバスを利用するため半日がかりとなったりということが見られています。		

<p>説明(3)</p> <p>説明(4)</p> <p>4 閉 会</p>	<p>高齢者が食料の買い出しなどで歩いてまちに出てこれる環境づくりが必要と思いますが、いかがお考えでしょうか。</p> <p>⇒（斉藤復興推進課長）買い物が不便になったという課題についても、まちづくり会議の委員も受け止めて考えていただきました。買い物の件をはじめ、課題はすべて行政で解決できるというものではなく、みなさんが活動できる部分、地域で支え合う部分、行政が支援する部分と言うような仕組みが必要と考えています。色々な課題の解決に向けて、まちづくり戦略の実践活動や各自治会で始まったサロンなど話し合いの場づくりなどを行政として支援し、課題解決に向けて一緒になって考えていきたいと思います。</p> <p>(3) 駅北広場「キターレ」の利用について (質疑なし)</p> <p>(4) その他 岡尾復興集落支援員から活動報告 (質疑なし)</p> <p>※全体を通じての質疑 (男性2) 来年度に雁木の床面を舗装するとのことですが、雁木本体の再建がまだの方が多くおられるなかで、舗装だけ一連で実施されるのですか。 また、雁木については、つながってこそのものであり、利便性や美観の問題も含め市ではどのようにお考えですか。 ⇒（大嶋商工観光課長）雁木本体については、連なることが望ましい訳ですが、個々のご事情もあるなかで、取り組みやすいようにモデルをいくつか示すなかで再建のお願いをしており、再建補助等の支援も行っているところです。 雁木の床面については、既存の御影石舗装と同じ仕上げを予定しています。雁木本体を再建された方だけ仕上げ舗装を行うと、つぎはぎのような形となり、歩行空間として公共性が高いことも考えあわせると一連で整備するのが望ましいと考えております。</p>
--	---